

■東白川村（ひがししらかわむら）

人口 2,189 人 面積 870.9 km²

【グラウンド・ゴルフ】



東白川村は岐阜県の東部に位置し、岐阜県に2つしかない村の一つです。東濃ひのき、白川茶や夏秋トマトの栽培が盛んで、村の総面積の92%は森林に囲まれた中山間地域です。

また、「最も美しい村連合」に加盟し豊かな自然や伝統文化に恵まれた村です。

○白川茶・東濃桧

白川茶の起源は約440年前、大沢村（現在の東濃地区）蟠龍寺の住職が、宇治から茶の実を持ち帰り、里人にお茶の栽培を奨めたのが始まりといわれております。山あいには拓かれた急峻な茶園で谷川から沸き立つ朝霧と澄みきった大気、昼と夜との高い温度差のなかでゆっくりと、やわらかく新芽を育む白川茶。この気候条件が、味に深みがあり、色にさわやかさあり、香りに懐かしさの漂う独特の風味を育んでくれるのです。今までに農林大臣賞や天皇杯、日本農業賞など数々の賞に輝く高級緑茶です。



また、村の総面積の92%は森林に囲まれた東白川村では古くから東濃桧が有名で住宅用の木材として広く

利用されています。近年はプレカット工場など加工された木材の販売も増えています。また中学生による緑化少年団の活動も盛んです。

○つちのこフェスタ

東白川村はつちのこ目撃情報日本一です。昭和初期から茶畑や山道でたびたびヘビのようなトカゲのような不思議な生物“つちのこ”が目撃されています。また、このつちのこを捜索するイベント「つちのこフェスタ」が毎年5月3日に行われ多くの人で賑わいます。



○寺のない村

東白川村は「寺のない神道の村」として全国でも珍しいところではあります。明治3年（1870）に東白川村を治めていた苗木藩（今の中津川市）から「仏教を捨てて神道にしなさい」という廃仏毀釈の命令がありました。これにより仏教が排除され、村に2つあったお寺は全て取り壊されました。約150年経った今も、東白川村はお寺の無い神道の村と言われております。左の写真は「四つ割の南無阿弥陀仏碑」です。この石碑はもともと、村にあったお寺のひとつ常楽寺の山門わきに飢饉や悪疫を治めるために建てられました。しかし廃仏毀釈により石工の手で縦四つに割られ隠されました。昭和10年（1935）今から約80年前に疫病が再び流行り石碑の祟りだと恐れた人々は、別々の場所に隠されていた石碑を集め再建しました。この石碑は、廃仏毀釈が厳しく行われたことを語る貴重な証拠物として村の史跡文化財第1号に指定。現在は東白川村役場前に立てられています。